

設計のシンプル化などによる更なるコスト縮減

和歌山県においては、厳しい財政状況の下、限られた予算の効率的な執行により、着実に社会資本を整備する必要があるとともに、今後老朽化する社会資本の急増が予想される中で、県民の安全・安心を第一に将来の維持管理・更新費用の増大に対応することも急務となっています。

これまでは、使用する材料を特注品にせず汎用品を使うなど、主として工事施工段階において、工法や材料により可能な限りコスト縮減に取り組んできました。

今後、更なるコスト縮減に取り組むため、設計の基本に立ち返り、県の地形・地理的条件を考慮したり、長期的に使える構造やシンプルな構造の施設とすることなど設計の基本的な考え方をとりまとめた「公共土木施設の設計についての運用指針（案）」（以下運用指針（案）という。）を策定しました。

このことにより、施工・維持管理を見通したトータルコストの縮減が可能となります。

今般、「運用指針（案）」を各発注機関に通知しました。

設計のポイント【運用指針(案)の概要】

○地形・地理的条件に応じた設計

- ・道路は交通量や沿道の利用を考慮した幅員とし、出来る限り既存の道路を有効活用する。
- ・河川を拡げる場合は、片側の拡幅を検討する。

○長期的に使える構造物の設計(維持管理が簡単な設計)

- ・街路樹を植える場合は、剪定などの維持管理が簡単な樹種とし、剪定は必要な木に限定して行う。
- ・橋など塗装している施設は、錆びや腐食が進まないよう計画的に塗り直し、長期的に使えるようにする。
- ・道路の斜面は、コンクリートなどを吹き付ける厚さを増すことで、大雨などに強く、長期にわたり保護できる構造とする。

○県内企業で施工可能なシンプルな構造の設計

- ・維持管理を簡単にし、県内企業で施工可能なシンプルな構造となるよう設計段階から工夫する。（短く直線的なトンネル、橋梁など）